交通事故には、遭わせない―。

そんな思いで、地域の安全を見守っている人たちがいます。

通学路の安心・安全の要 見守り隊

「おはようございまーす」。通学路に響く元気な声。「今日は、何があるん？」「今日は遠足だよ。妹背の滝まで歩くんよ」「気を付けて行きんさいよー」。そんな会話が自然と始まる。

子どもたちを交通事故や犯罪から守るため、学校、町内会、民生委員、コミュニティ、PTAや老人クラブなどが協力し、登下校時に通学路に立って、児童・生徒を見守っています。

その名は「見守り隊」。車の運転手から確認しやすいように、グリーンの帽子とベストを着用しています。登下校時の見守りのほか、あいさつ運動、地域のパトロールや、防犯広報・啓発活動にも取り組んでいます。

それぞれの団体が、それぞれの立場で関係を持ち、取り組んでいますが、共通して心の中にあるのは「子どもは地域の宝。地域で育てていこう」という思いです。

見守り隊は、それぞれの地域で活動されています。お手伝いしていただける人は、各小・中学校に間に合わせてください。

子どもたちの命を守る―。

一つの事故も起こしたくない―。見守り隊の想いは同じ。

地域の目が光っているまちに。

きたむら・ひろあき
北村　弘明さん
（桜尾本町・78歳）

よく子どもたちに「用心しなさい」と言いますが、何を用心していいのか分からない世の中になっています。自分は気を付けていても、交通ルールを守らない人が一人いれば、事故は起きてしまいます。

これから将来を担っていく子どもたち。それを大人が守っていかないといけません。わたしたちがこうして立っていることで、ドライバーが注意してくれればと思っています。

廿日市市は、悪いことはできないという雰囲気をつくることが大事だと思っています。そのために、地域の人たちの目が光っているまちにしたいですね。

地域への恩返しだと思っています。

よしだ・しんじ
吉田　新二さん
（大野中央・89歳）

この地域で長くお世話になり、こうして長生きができるのも地域の方のおかげです。その恩返しだと思って活動を続けていますが、体を動かすことで健康づくりにも役立っています。

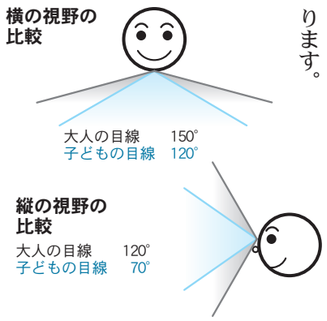
気を付けているのは、笑顔ですね。子どもの顔を見て、こちらが笑顔で「いってらっしゃい」と言うと、子どもたちは笑顔で返事をくれます。そういった子どもたちとの会話や笑顔を見ることで、こちらがエネルギーをもらっています。

子どもは地域の宝です。これからも地域で連携して、子どもたちの安全を見守っていきたいと思っています。

子どもの目線を理解して

子どもは視野が狭く、視点が低いのが特徴です。水平方向の視野が大人の約150度に対し、子ども（7・8歳児）は約120度、垂直方向の視野が大人約120度に対し、子どもは約70度しかありません。また、身長が低いので、大人が見えるものでも小さな児童からは見えません。

左の図のように、大人と子どもの視界にはこれだけの差があります。



右見て、左見て、右見て

なぜ、右から先に見るのでしょう。それは、日本では自動車が道路の左側を通るからです。歩行者が道路を横断する際、必ず先に右方向から来る車に出会うから。ちなみに車が右側通行の国では、左から先に見るように指導されます。

市内での交通事故の現状

昨年の交通事故の発生状況をみると、平成22年中に比べ81件も増加。今年に入ってもすでに120件もの事故が発生しています。

事故を分析すると、一日の中では16時から20時までの帰宅時に事故を起こすケースが多いのが現状です。また、月ごとに見ると、年末年始の時期が一番多く、次いで6月から10月までの間となっています。

また、毎年死亡事故も発生し、昨年は6人もの尊い命を失いました。そのうち半数は65歳以上の高齢者でした。

これからの季節は、レジャーなどに出掛ける機会も多くなります。よりいっそうの注意を心掛けてください。

廿日市市交通事故発生状況（高速道路を除く）

	発生件数	死者数	負傷者数
平成24年 1月～3月	120件	―	145人
平成23年 1月～12月	592件	6人	773人
平成22年 1月～12月	511件	7人	646人
平成21年 1月～12月	524件	5人	695人
平成20年 1月～12月	575件	4人	741人